

08 へら鮎のタナと釣り方

へら鮎釣りは、季節、魚の活性、密度によって泳層(タナ)が変わり、それに合わせてエサの使い方も違いがでてきます。

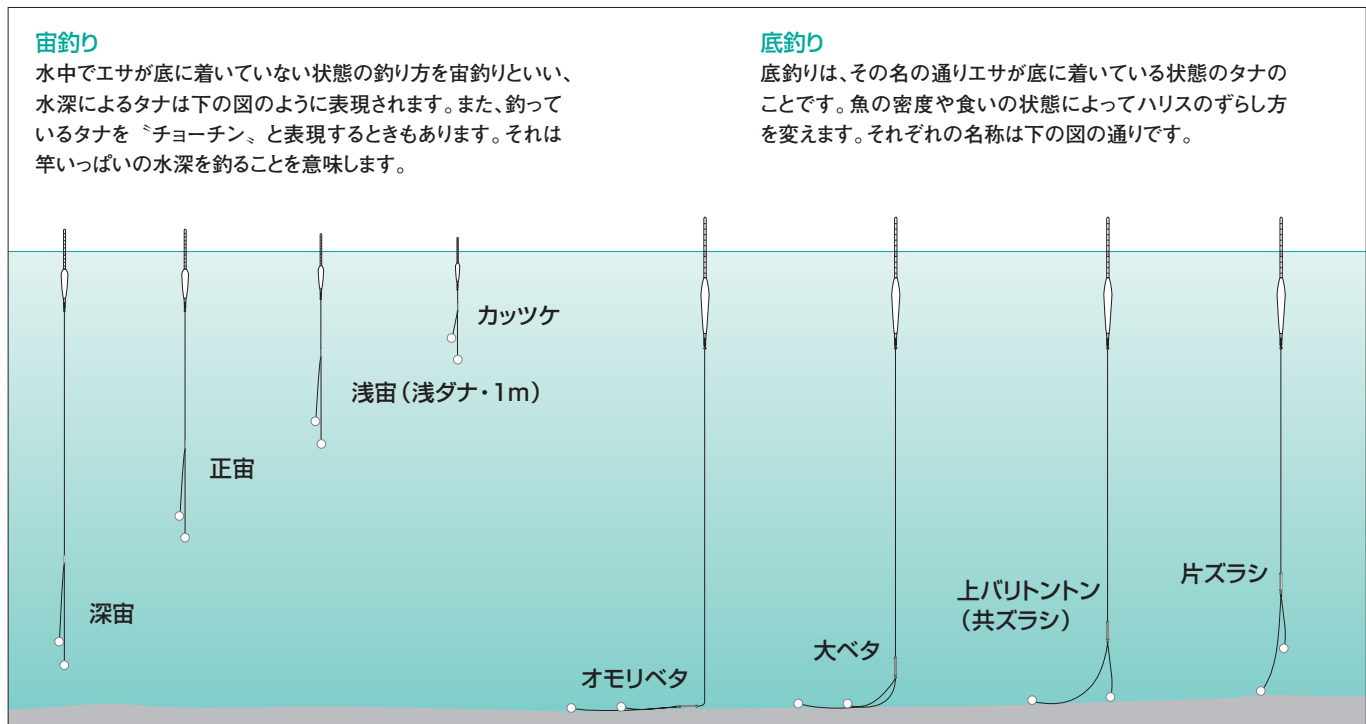
ここではへら鮎のタナと、どんなエサを使った釣り方が効果的かを説明します。



へら鮎のタナ

へら鮎は変温動物ですから、水温の変化にとっても敏感で生存に適した泳層を決める要因のひとつであることは前にも説明しました。この泳層のことをタナといいます。へら鮎の回遊するタナは気圧や水中の酸素の量(容存酸素)で

も変わってきます。このように、へら鮎はいくつかの条件が満たされているタナを回遊してエサを食べており、そのタナは大まかに宙と底に分かれ、宙層を釣る宙釣り、水底を釣る底釣りがあり、下の図のような名称があります。その日の釣りやすいタナを見つけてください。



エサによる釣り方

暖かい季節は水中の酸素量も増え、へら鮎の活性も高くなりダンゴエサでも積極的に食べるようになります。しかし、あまり水温が高くなり過ぎると水の状態が悪くなる場所

では、へら鮎も人間と同じように食欲が落ちて、大きなエサの塊はなかなか食べません。また、寒い時期はへら鮎の動きも低下し、エサを吸い込む力も弱ってしまいます。へら鮎釣りは、タナの変化に加えて、魚のコンディションに合ったエサを選び、釣り方を決めていきます。

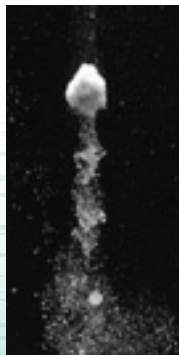
● 両ダンゴ(ダンゴの共エサ)の釣り

上下のハリに魅、もしくはマッシュ系のエサをつけたもので、ひとつのエサで寄せる目的と食わず目的の両方を満たすことから両ダンゴ(ダンゴの共エサ)と呼ばれています。へら鮎釣りの基本となる釣り方で、主にへら鮎の活性が高いときに使われます。



● セットの釣り

上バリに魚を寄せるためのバラケエサ、下バリに食わせるためのくわせエサを付けた釣り方です。セットの釣りは年間を通して有効で、食い渋りに効果を発揮する釣り方です。



● 両グルテンの釣り

管理釣り場や野釣りを問わず定期的な放流が行なわれる釣り場では、10~12月にかけて養魚場から買った新しいへら鮎(新べら)を放流します。この新べらを釣るのに最も効果的なエサがグルテンです。上下両方のハリに、このグルテンエサを付けた釣り方が両グルテンの釣りとなります。宙釣り、底釣りのどちらでもこの釣り方をします。魚の活性が低下している時期や春先の釣り、乗っ込みの釣りにも有効な釣り方です。

